警察署協議会会長連絡会議録

開催年月日時		2月 2日 午後 3時 30分 から 2月 2日 午後 5時 30分 まで		
開催場所	警察本部 講堂			
出席者	公安委員会	公安委員長以下4名		
	警察署協議会	各警察署協議会会長等 3 4名		
	警察本部	本部長、総務部長、警務部長、生活安全部長、地域部長、刑事部長、暴力団対策部長、交通部長、警備部長、福岡市警察部長、北九州市警察部長、 首席監察官、警務課長、総務課長		
議事概要				

【開会】

【第一部】

〈公安委員会委員長挨拶(要旨)〉

- 警察署協議会が設置され16年が経過し、この間、地域の代表者である皆様方が地域と警察の架け橋となり、治安向上へ向けての重要な役割を果たしている。
- 皆様方の尽力により、住民の安全・安心に対する意識が大いに高まり、犯罪の 発生件数も14年連続で減少するなどの大きな成果となって表れている。
- 今後も、警察署長に対して地域の方々の目線で意見していただくことで、ます ます安全で安心な街になっていくものと信じている。
- 本日は、活発な意見交換を行い、公安員会としても今後の活動に活かしていき たい。

〈警察本部長挨拶(要旨)〉

- 皆様には、平素から警察署の運営に関して、深い理解と協力に心から感謝を申 し上げる。
- 各地域が抱える治安上の問題解決に向けた意見が警察活動に反映され、また、

自治体や関係機関を動かす力となるなど、皆様の活躍を実感している。

- 本県警察では、昨年、G7北九州エネルギー大臣会合警備を完遂し、工藤會等暴力団の壊滅に向けた対策が進展したほか、交通事故発生件数は前年から減少し、刑法犯認知件数も戦後最少となるなど、着実に成果を示すことができた。一方で、暴力団が県民に与える脅威は依然存在し、飲酒運転による交通事故、性犯罪等は増加しており、県民の方々が安全安心を実感するには、未だ道半ばである。
- 本年も県警察の運営指針を「県民の安全・安心の確保」とし、「暴力団の壊滅」 「飲酒運転の撲滅」「性犯罪の抑止」を三大重点目標に掲げ、継続して推進して いく。

〈警察本部からの説明等〉

- 1 平成28年中の治安概況及び平成29年福岡県警察運営指針等について(警務 部長)
 - (1) 平成28年中の治安概況

三大重点目標及び重点目標に関して、発生や検挙状況等について説明

(2) 平成29年福岡県警察運営指針等

福岡県警察運営指針、三大重点目標、重点目標の設定理由や推進事項について 説明

- 2 テロの現状と対策について(警備部長)
 - (1) テロの現状

世界各国におけるテロの発生状況、「ホームグロウン型テロ」「ローンウルフ型テロ」等の脅威について説明

(2) テロの未然防止対策

ソフトターゲット対策の4本柱、テロ対策福岡パートナーシップ推進会議等に ついて説明

(3) 今後の予定

「第37回全国豊かな海づくり福岡大会」「第9回ラグビーワールドカップ大会」「東京オリンピック・パラリンピック大会」等、今後のイベント予定について説明

【第二部】

〈警察署協議会からの活動報告〉

- 1 春日警察署管内の治安・環境整備の改善に向けた取組(春日警察署協議会会長)
 - 情報発信活動~メール配信ネットワークKON ANS【コナンズ】の構築
 - 防犯カメラの設置
 - 県道31号線春日市役所入口交差点の改良
- 2 繁華街黒崎の治安対策 (八幡西警察署協議会会長)
 - 街灯の新規設置
 - 違法駐車対策
 - 客引き対策
 - 緊急車両用駐車場の確保
 - その他の活動事例
- 3 警察署協議会の意見・要望に基づく取組について(飯塚警察署協議会会長)
 - 効果的な広報啓発活動に関する提案 チャイルドシートの着用促進(交通安全運動の取組) 商店街のイベントの活用(広報チラシの配布、広報ブースの設置、安全・安心 コンサートin飯塚の開催)
 - その他の活動事例

〈公安委員講評(要旨)〉

○ 公安委員になり6年目に入ったが、日本の警察は本当に素晴らしい、特に福岡県警察は大きな暴力団問題を抱える中、厳しい統制と組織一丸となった取組姿勢を見るとレベルが上がったと感じている。地域の安全安心というのはコストが掛かることを痛切に感じている。従前は、日本独特の地域社会の相互監視によって安全安心が守られていたが、今は、何かあれば警察に頼る状態が出てきている。この状態を何とか軽減し、地域の安全安心を守るために、警察署協議会と警察署との連携が非常に重要ではないかと思っている。地域の情報発信・収集に長けた皆様が、その情報を基に警察署と一緒になって犯罪等の未然防止を図っていただいたならば効果は絶大なものとなると思う。

- 三地区の警察署協議会からの活動を聞き、地元を良くしよう、自分が住んでいるところを良くしようということが非常に印象に残った。日本の治安は世界でトップクラスであり、安心できる国と思うが、それは、警察と地域住民とが一体となり住みやすい地域にしていこうとする取組の成果であると思う。その原点となるのがそれぞれの地域でそれぞれに犯罪を抑止し、住み良い町にしていくことである。それは地域住民が色々な形で取り組み、警察署に期待を発信していくという仕組みの中で実現できるものである。協議会における取組を今後も継続することでより良い方向に導いていただきたい。
- 数年前まで警察署協議会の委員を務めていたが、その頃に比べると随分と活発な 活動をされていると感じた。これからも警察業務への理解と協力をお願いしたい。

〈事例発表に対する質疑及び警察署協議会の運営等に関する意見等〉

- 出席者から、「活動報告の中で、メール配信ネットワークによる情報発信があったが、発信する情報の主な内容を教えていただきたい。」旨の質疑があり、活動報告者から、「管内における、地区別の細かい犯罪、交通事故の発生情報、警察から地域の方々に知らせたい多様な情報を、分かり易く発信している。半年で54回、週2回のペースで発信している。」旨の回答があり、さらに他の出席者から、「企業向けに情報発信しているが、個人向けの情報発信は考えているのか。」旨の質疑があり、活動報告者から、「関係団体に対して情報発信をしていこうということで開始したが、今後は、ふっけい安心メールのような個人向けの情報発信として裾野を広げていければと考えている。」旨の回答があった。
- 出席者から、「活動報告中の緊急車両用駐車場の確保については、道路を拡張して作ったのか。」旨の質疑があり、活動報告者から「駐車場は駅の敷地を利用している。駅と区役所が協議して緊急車両用駐車場を確保した。」旨の回答があり、さらに他の出席者から「警察官の姿を見せて警戒することが一番の目的であると思うが、県警とバス会社が協力してバス停で見せる警戒が可能であるか。」旨の質疑があり、警察本部から「バス停は一般的に駐車するところではないので、警察車両や警察官の姿を見せるのに適した別のスペースを利用させてもらうことが好ましい。」旨の回答があった。

- 出席者から、「活動報告の中で、客引き対策において取締り班による現行犯逮捕とあったが、客引きのどの様な状況を捉えて逮捕という注意以上の対策を行う必要があったのか。」旨の質疑があり、活動報告者から「黒崎の街から暴力団の姿が消えることは良い事であるが、その代わりに客引きの質が非常に悪くなっており、客引きが袖を引っ張る、道一杯に10人くらいが広がる、そこにタクシー等が通りかかっても通り抜け出来ない、通り抜けようとしてクラクションを鳴らすと客引きが運転手を引き摺り下ろして暴力行為に及ぶ等の状況が見られ、協議会として客引きの取締りを提案した。」旨の回答があった。
- 出席者から、「活動報告の中で、協議会に学生の委員がいるとあったが、若い 委員からはどの様な意見がなされているか。」旨の質疑があり、活動報告者から、「管内の大学の女性の学生であり、よその地域から大学に通学していることから、新しい目で暗い場所、危険な場所など、特に性犯罪の抑止の視点から発言があっている。93歳の最高齢の委員もおり、幅広い年齢層の委員がいることで様々な意見がなされている。」旨の回答があり、さらに別の出席者から「年齢以外に委員を選定する基準は何かあるのか。」旨の質疑があり、活動報告の会長から「自治会長、婦人会、高校の教頭先生など様々な分野から選出するようにしている。」旨の回答があった。
- 出席者から、「活動報告の中で白バイの夜間運行があったが、白バイが夜間に走行する姿をあまり見掛けないが、白バイの運用はどの様にしているのか。」旨の質疑があり、活動報告者から、「白バイの夜間運行は危険を伴うので基本的には行っていないが、白バイ隊員は事前に訓練を行い、夜間も白バイが走っているという姿を見せ、抑止を目的として夜間運行を行っている。あくまでも顕示効果によって暴走行為や交通事故を抑止するために白バイの夜間運行を提案した。」旨の回答があり、さらに出席者から、「白バイの夜間運行については、警察署に依頼すれば可能なのか。」旨の質疑があり、警察本部から、「白バイの運用については警察本部から各警察署へ通達を発出しており、夜間走行については原則禁止としている。全国における過去10年間の白バイ隊員の乗車中の殉職者は8人、重傷者は53人となっており、さらに夜間においては非常に危険である。特に夜間の死亡事故が頻発する場合やあらゆる対策を行っても効果が出ない場合

等、特に所属長が認める場合に限って夜間運用を認めることとしている。夜間運用するに当たっても、事前訓練を徹底する、単独走行は出来ない、速度追従は出来ない、雨天走行は出来ない、緊急走行は出来ない等、非常に厳しい条件を付して運用することとしている。このため、その時々の交通情勢に応じて慎重に検討して運用を図っていきたいと考えている。」旨の回答があった。

○ 出席者から、「警察署協議会の委員となり8年目を迎えた。会長連絡会議も7回参加しており、その中で各協議会の様々な取組を聞かせてもらい非常に参考になった。今回の活動報告の中でも防犯カメラの設置に関する取組があったが、個人情報の関係で難しいと言われていたのがここ数年で当たり前となり、防犯カメラの効果、重要性というものを実感している。警察署協議会から卒業するが、これからも別の面で警察に協力し地域の安全安心のために尽力していきたい。」旨の意見があった。

〈警察本部長コメント(要旨)〉

- 活動報告にあった情報発信活動は、情報の共有という面で非常に重要であると 思っている。安全安心について色々な角度からの情報を市民の皆さんに知っても らっていることが犯罪の抑止に対して非常に大きな力になっている。
- 活動報告にあった防犯カメラの設置について、県下の刑法犯認知件数が減っているのは、やはり防犯カメラの影響が大きいと考えられる。警察署協議会の中で意見を出していただき、住民の方々からこういった声が出ていると自治体に働きかければ防犯カメラの設置に向けて非常に大きな力となる。
- 活動報告にあった街灯の設置について、女性の委員から暗くて不安だったという声により街灯を新設したもので、駅前から少し離れた暗くなっている路地で性犯罪が発生しているという現状もあり、この様な声を警察行政の中に反映させていきたい。駅での駐留警戒については、制服警察官の姿をどの様に見せるかということが非常に大きな課題であり、出来る限り効果があるところに制服警察官の姿を見せていきたい。交番の場所やパトカーを駐留させる場所があるかどうかについても、住民の方々がどの辺りに不安を感じているのかを把握し、その不安を解消することが非常に大切である。

- 活動報告にあった広報啓発活動について、乳児健康診断の場所や商店街の各種 イベントにける情報発信は、警察の中からはなかなか出て来る発想ではないの で、どの様な形で管内住民に情報を発信し、どの様な媒体があるのか知恵をいた だくことは非常にありがたい。ニセ電話詐欺は様々な手口があり、一度注意喚起 したからそれで終わりというものではなく、繰り返し伝えていくことが重要であ る。何処に行けば伝わるのか、非常に頭が痛い問題であり、先ほどチラシに防犯 情報を掲載する話もあっが、市民から見てこういった場所、方法で伝えるのが効 果的ではないかと意見をいただくことが有益である。
- 活動報告にあった警察活動の視察について、市民の皆さんから警察官が見られている、見ていただいていると意識することは非常に大事なことである。警察官というのは、見られているということを意識することで背筋も伸びるし、住民のために仕事をしなければならないと思うものであり、是非、警察活動へ参加していただきたい。
- 本日いただいた貴重な御意見は、今後の警察活動に活かしていきたい。

【】云】			会】	
------	--	--	----	--